

旧員弁郡定住自立圏
中心市宣言書

平成21年9月1日

いなべ市

旧員弁郡定住自立圏中心市宣言

旧員弁郡5町（東員町、北勢町、員弁町、大安町、藤原町）は鈴鹿山脈と養老山地に抱かれた扇状地に位置し、天平の昔より地形的にも文化的にも密接に交流しながら、一体の圏域として発展してきました。「イナベ」という名は大和朝廷に仕えた豪族「猪名部氏」に由来し、大化の改新により猪名部郡が誕生しました。和銅6年（713年）、猪名部は員辨に改名され、さらに、戦後、漢字の簡素化により、員辨は員弁に改められました。そして、平成15年、旧員弁郡5町のうち、北勢町、員弁町、大安町、藤原町の4町は合併し、いなべ市となりました。

旧員弁郡では従来より、行政区域を越えた広域の連携や都市機能の分担が行われてきました。いなべ総合病院を核とした救急医療対策の連携をはじめ、消防団や交通安全など生活安全分野での連携、教育での教職員の連携、国道365号、国道421号や東海環状自動車道等、幹線道路の整備促進に向けた要望活動など、共通する課題に対して連携を図ってきました。

このように歴史的にも地理的にも関係の深い東員町といなべ市が、今回、新たに定住自立圏として双方の個性と機能を活かしながら連携していくことにより、「定住」のための暮らしに必要な諸機能を確保するとともに、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを醸成し、魅力あふれる地域を形成して圏域全体の発展につなげようとするものです。

本市は、この旧員弁郡の歴史の積み重ねを念頭に、活力に充ちた光り輝く地域の創造と発展に向けた定住自立圏の構築を目指し、双方が互いに連携・協力することを決意して、ここに圏域の中核的な役割を果たす市として、圏域の発展のため全力で取り組むことを宣言します。

平成21年9月1日

いなべ市長 日 沖 靖

1 都市機能の集積状況及び周辺市町の利用状況

(1) いなべ市における都市機能の集積状況

いなべ市の中核的な医療機能、商業・娯楽機能、教育・文化機能、公共施設等による各種サービス機能、その他行政及び民間分野における都市機能の集積状況は概ね次のとおりであり、定住自立圏を形成する中心市としての機能が確保されています。

■都市機能の集積状況

| 分野 | 都市機能 | 施設名等 | 備考 |
|------------------|------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 医療 福祉 | 総合病院 | いなべ総合病院 | 18科 220床 救急指定病院 災害指定病院 |
| | その他の病院 | 日下病院 | 13科 154床 (一般 106、療養 48) |
| | | 北勢病院 | 精神科病院 4科 176床 |
| | 特別養護老人ホーム | 翠明院、アイリス 他 | |
| | 障害者施設 | いなべ市障害者活動支援センター 他 | |
| | 保育施設 | 市立 10園、私立 5園 | |
| | 健康増進施設 | 阿下喜温泉あじさいの里 | |
| 教育 文化 スポーツ | 高等学校 | 県立いなべ総合学園高等学校 | |
| | 文化施設 | 北勢市民会館 他 | |
| | スポーツ施設 | 員弁運動公園 他 | 野球場、サッカー場、 テニスコート、プール 体育館 他 |
| 観光 娯楽 | キャンプ場 | 青川峡キャンピングパーク 他 | |
| | 農業公園 | いなべ市農業公園 | 58ha |
| | 都市公園 | いなべ公園 他 | 7.6 ha |
| 消費 商業 | 大型ショッピングセンター、スーパーマーケット | イオン、マックスバリュ、 ホクセイスーパー、ヨシヅヤ 等 | |
| | 銀行、信用金庫 | 百五銀行、三重銀行、中京銀行、桑名信用金庫 | 9支店（出張所含む） |

| | | | |
|----|----|----------------------|---------------------|
| 交通 | 鉄道 | 三岐鉄道北勢線 三岐鉄道本線 | 北勢線 4 駅 三岐本線 8 駅 |
| | バス | 三重交通 | 桑名阿下喜線 |
| | 道路 | 国道 306 号、365 号、421 号 | |

(2) 周辺市町の住民による都市機能の利用状況

① 中核的な医療機能

いなべ総合病院は、救急指定病院や災害拠点病院の指定を受け、24 時間診療の救急医療体制が整備され、休祭日および夜間の救急患者の約 97%を受け入れるなど、圏域における医療拠点となっています。また、産婦人科、小児科の充実など子どもを生み育てやすい医療体制が圏域住民の安全・安心な暮らしを支えています。

■いなべ総合病院の利用状況 (H20 年度)

(単位：人)

| 区分 | 患者数 | | | |
|-----------|--------------|------------|------------|--------------|
| | いなべ市 | 東員町 | その他 | 計 |
| 通常外来 | 1 6 0, 5 8 5 | 1 8, 6 4 7 | 3 0, 6 0 9 | 2 0 9, 8 4 1 |
| 時間外、深夜、休日 | 8, 3 9 7 | 1, 4 6 3 | 3, 3 8 6 | 1 3, 2 4 6 |
| 救急者搬送 | 7 6 1 | 2 1 1 | 3 8 4 | 1, 3 5 6 |

※いなべ総合病院提供資料より

② 教育機能

いなべ市には、圏域唯一の高等学校である県立いなべ総合学園があり、周辺市町から多数の学生が通学しています。

■いなべ総合学園高等学校の通学者 (H20 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

| いなべ市 | 東員町 | その他 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|
| 3 8 1 | 1 1 9 | 4 5 0 | 9 5 0 |

※いなべ総合学園高等学校学校要覧より

③ 商工業機能

国道 421 号など主要国道に沿いに大手スーパーやファミリーレストランなどの郊外型商業施設の立地が進んでおり、圏域の商業機能を担っています。また、いなべ市には(株)デンソーやトヨタ車体(株)、(株)神戸製鋼所などの大手企業の工場が立地し、

市内はもとより周辺市町の住民も多数就業しています。製造業における従業員数及び製造品出荷額は年々増加し続けています。今後も、前林工業団地、鶴沢工業団地などの開発も予定されており、工業規模の拡大は継続すると思われま

■ 圏域の商業（H19 年度）

| 自治体 | 商店数 | 従業者数（人） | 年間商品販売額（万円） |
|------|-----|---------|-------------|
| いなべ市 | 397 | 2,275 | 3,524,800 |
| 東員町 | 171 | 1,240 | 2,297,500 |

※いなべ市、東員町 商業統計より

■ 圏域の工業（H19 年度）

| 自治体 | 事業所数 | 従業者数（人） | 製造品出荷額等（万円） |
|------|------|---------|-------------|
| いなべ市 | 215 | 17,103 | 100,436,687 |
| 東員町 | 89 | 4,304 | 12,785,000 |

※いなべ市、東員町 工業統計調査より

④ 公共交通

国道 421 号、365 号及び 306 号が走り、圏域の交通・物流を担っています。平成 23 年には国道 421 号石榑トンネルの開通が予定され、また東海環状自動車道の整備も進められており、関西圏と名古屋圏を取り巻く環状軸との結節点として、産業・経済、物流をはじめ、多様な交流を発展させる可能性がさらに高まりつつあります。

鉄道では、三岐鉄道北勢線と同三岐本線の 2 路線が通っており、12 駅（北勢線 4、三岐本線 8）があります。また、バス路線は、三重交通桑名阿下喜線が通っています。これらの公共交通機関は、圏域での公共交通の中心的役割を担っています。

このように圏域における公共交通機能は、近隣都市を結び、人・もの・情報などのネットワークの形成に大きく寄与しています。

■ 三岐鉄道市内主要駅の乗車人員

（単位：人）

| | | | | |
|-----|---------|---------|---------|---------|
| 北勢線 | 阿下喜 | 楚原 | 大泉 | 東員 |
| | 121,453 | 177,630 | 106,192 | 153,350 |
| 本線 | 大安 | 三里 | | |
| | 167,716 | 133,675 | | |

※H20 年度 三岐鉄道提供資料より

2 想定する周辺市町との連携項目

誰もが住み続けたいと思う定住自立圏を形成していくためには、「生活機能の強化」は重要な要素です。また、定住自立圏が有機的に機能していくためには、民間企業や市民団体など様々な主体との「結びつきやネットワークの強化」が重要です。さらに、定住自立圏を将来にわたって持続していくためには「圏域マネジメント能力の強化」が必要です。

定住自立圏全体の活性化を通じて人口の定住と圏域の自立を図るため、周辺自治体と主に次のような分野で連携することを想定しています。

■連携項目

| 政策分野 | 分野 | 取組内容 |
|-----------------|--------------|---|
| ①生活機能の強化 | 医療 | いなべ総合病院を核とした救急医療体制の充実に関する取組 |
| | 福祉 | 介護認定審査、障害者介護給付認定審査など福祉サービスの業務に関する取組 |
| | 教育 | 市立小中学校の教職員を対象とした教育研究、教員研修に関する取組 |
| | 防災 | 消防団を中心とした総合防災訓練など、防災体制の強化に関する取組 |
| | その他 | 上記の他、生活機能の強化に関する取組 |
| ②結びつきやネットワークの強化 | 地域公共交通 | コミュニティバスや福祉バスと三岐鉄道との乗り継ぎの利便性の向上を図るなど、公共交通機関の維持・強化に関する取組 |
| | 道路交通インフラ | 圏域市町間を結ぶ幹線道路や生活道路の整備に関する取組 |
| | 交流、移住促進 | I J Uターンを促進するため自治体ホームページの活用による空き家情報の共有など、空き家の有効活用に関する取組 |
| | 市民活動 | 市民活動団体の情報の共有、ボランティアコーディネーターの育成などに関する取組 |
| | その他 | 上記の他、結びつきやネットワークの強化に関する取組 |
| ③圏域マネジメント能力の強化 | 市町職員の交流・人材育成 | マネジメント能力、地域の魅力創造、情報発信力などを高めるための職員研修に関する取組 |
| | その他 | 上記の他、圏域マネジメント能力の強化に関する取組 |

3 いなべ市への通勤通学が1割以上市町の名称

本市への通勤通学割合が1割以上ある市町は、次のとおりです。

■本市への通勤通学割合

| | 通勤通学割合 〔A/B〕 (%) | 本市に対して通勤通学 する就業者数及び通学 者数〔A〕 (人) | 常住する就業者数及び 通学者数〔B〕 (人) |
|-----|------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| 東員町 | 0.133 | 1,884 | 14,180 |

※平成17年国勢調査

4 圏域の人口

圏域の人口は平成7年まで一貫して増加してきましたが、平成12年の国勢調査では僅かに減少に転じました。平成17年の調査では再び増加しましたが、人口増加率のトレンドとしては減少傾向に入ろうとしています。

平成21年8月1日現在の人口は次のとおりです。

■圏域の人口（H21年8月1日現在） (単位：人)

| いなべ市 | 東員町 | 圏域全体 |
|--------|--------|--------|
| 46,829 | 26,004 | 72,833 |

※住民基本台帳人口と外国人登録人口の合計

■圏域の人口の推移 (単位：人、%)

| | | S55 | S60 | H2 | H7 | H12 | H17 |
|------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| いなべ市 | 人口 | 40,574 | 41,591 | 43,882 | 45,746 | 45,630 | 46,446 |
| | 増加率 | | 2.51 | 5.51 | 4.25 | -0.25 | 1.79 |
| 東員町 | 人口 | 15,538 | 18,949 | 25,447 | 26,235 | 26,305 | 25,897 |
| | 増加率 | | 21.95 | 34.29 | 3.10 | 0.27 | -1.55 |
| 圏域 | 人口 | 56,112 | 60,540 | 69,329 | 71,981 | 71,935 | 72,343 |
| | 増加率 | | 7.89 | 14.52 | 3.83 | -0.06 | 0.57 |

※国勢調査資料より